平成１５年度教育課程実施状況調査　教科別分析と改善点
（中学校・英語）

１.今回の調査結果の特色

（１）調査結果の概要

【ペーパーテスト調査】

＜聞くこと＞

○　「応答問題」では，肯定的に決まった応答表現や，Where や Whose を用いた疑問文に対する応答などにおいて，前回の同一問題の通過率を上回った。

○　所有代名詞や否定文で応えること，文形式ではなく内容に応じて応える問題，申し出や依頼に対する応答などは，定着が十分ではないと考えられる。

○　「詳細理解問題」では，数字の聞き取りや聞いた英語を視覚的に絵と結び付けやすい問題については，前回の同一問題の通過率を上回った。

○　前置詞の意味や後置修飾の意味のとらえ方，不定詞の理解，多くの情報を整理して理解することには課題があると考えられる。

＜読むこと＞

○　「詳細理解問題」では，文の意味内容が直接的に絵に結びつく問題は，前回の同一問題の通過率を上回った。

○　第３学年では設定通過率を上回るまたは同程度と考えられる問題数の合計が半数未満であった。特に，前置詞の理解，連語の意味，いくつかの情報を整理して正確に内容を読みとることなどにおいて課題がある。

○　「概要・要点理解問題」では，書かれた情報を整理して，発話の意図をとらえる問題は，前回の同一問題の通過率を下回った。

○　「言語使用に関する知識理解問題」で，日常的な慣用表現は定着が見られる。

＜書くこと＞

○　「トピック指定問題」では，まとまった内容の文章を書くことが弱く，通過率が設定通過率を下回った。be 動詞と一般動詞の併用や，代名詞の変化ができていない誤答が目立つとともに，無解答率が高い。

○　「条件指定問題」では，例文を参考にして紹介文を書く問題や英語のメモをもとに手紙を完成させる問題で，前回の同一問題の通過率を上回った。

○　「文構造問題」では，where で始まる疑問文などの問題で，前回の同一問題の通過率を下回った。また，後置修飾，不定詞などの構造について課題がある。

【質問紙調査】

○　「英語の勉強が好きだ」という問いに対しては，学年が進むにつれて肯定的な回答が減少する傾向。

○　「英語の授業がよく分かる」「だいたい分かる」と答えた生徒は学年が進むにつれ減少する傾向。

○　「強勢，イントネーション，区切りなど英語を正しく聞き取れるようになる指導」については，肯定的な回答をした教師が各学年とも80%前後。

○　「物語や説明文などの指導」及び「自分の気持ちや考えを書く活動」については，学年が上がるにつれて肯定的な回答をした教師の割合が増加する傾向。

（2）ペーパーテスト調査結果の主な特色

①　過去同一問題についての分析

前回調査（平成13年度調査）と同一の問題の通過率を学年ごとに比較すると，前回を有意に上回る問題数が，有意に下回る問題数より多い。各学年の状況は以下のとおり。

	全問題数	同一問題数	前回を有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回を有意に下回るもの
1年	７５	２５	１１<44.0%>	８<32.0%>	６<24.0%>
2年	８１	２５	９<36.0%>	１０<40.0%>	６<24.0%>
3年	８０	２３	１０<43.5%>	１１<47.8%>	２ <8.7%>
計	２３６	７３	３０<41.1%>	２９<39.7%>	１４<19.2%>

（ア）聞くこと

全ての問題タイプにおいて，前回を有意に上回るものまたは前回と有意に差がないものの合計が半数以上を占めている。

問題タイプ別に述べると次のようになる。

「応答問題」では，ほめられた際に応じる Thank you．や Let's listen to music．という誘いに That's a good idea．と応じるなどの基本的な応答表現は前回よりも伸びている。このように，決まった表現で応答することについては前回よりも定着していると言える。また，whose，where で始まる疑問文に対する応答が前回よりも伸びている。

「詳細理解問題」では，数字の聞き取りや聞いた英語を視覚的に絵と結びつけやすい問題については前回よりも伸びている［３Ｂ2（３)］。

「概要・要点理解問題」では，自己紹介の表現や買い物の表現では，前回よりも伸びている。一つの話題の中に情報量が増えると，情報を整理しやすいものは前回よりも伸びているが，整理しにくいものは前回より落ちている。

（イ）読むこと

全ての問題タイプにおいて，前回を有意に上回るものまたは前回と有意に差がないものの合計が半数以上を占めている。

問題タイプ別に述べると次のようになる。

「詳細理解問題」では，文の意味内容が直接的に絵に結びつく問題で前回より伸びている。

「概要・要点理解問題」では，書かれた情報を整理して，発話の意図をとらえる問題については，前回より落ちている。

「談話構造理解問題」では，全ての学年において，前回より有意に下回るものはない。行為がよかったことに対して Yes，they did a good job．とほめることを選ぶ問題［３Ｃ6（１)］については，前回より伸びている。

「言語使用に関する知識理解問題」では，Let's ～．という提案に対して Good idea．で応じる問題について前回より伸びている。

（ウ）書くこと

全ての問題タイプにおいて，前回を有意に上回るものまたは前回と有意に差がないものの合計が半数以上を占めている。

問題タイプ別に述べると次のようになる。

「トピック指定問題」では，全ての学年において前回との間に有意な差は認められない。

「条件指定問題」では，全ての学年において，前回を有意に下回るものはない。例文を参考にして紹介文を書く問題［２Ｃ9（１)］や英語のメモをもとに手紙を完成さ

せる問題については前回よりも伸びている。

「文構造問題」では，Can I use your pen? , I like this one. , I don't know how to get there. といった表現は前回よりも伸びている。一方，where で始まる疑問文 Where does he live? ［１A１０（３）］の構造理解については，前回より落ちており，依然として課題である。

② 内容・領域別に見た分析

内容・領域ごとに通過率と設定通過率を比較すると，通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられる問題数の合計が，第１学年では，「聞くこと」「読むこと」において半数以上を占め，「書くこと」において半数未満となっている。第２学年では，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべてにおいて半数以上を占めている。第３学年では，「聞くこと」において半数を占め，「読むこと」「書くこと」において半数未満となっている。各学年の内容・領域別の状況は以下のとおり。

		問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
１年	聞くこと	３０	１３〈43.3%〉	６〈20.0%〉	１１〈36.7%〉
	読むこと	３０	４〈13.3%〉	１２〈40.0%〉	１４〈46.7%〉
	書くこと	１５	２〈13.3%〉	３〈20.0%〉	１０〈66.7%〉
	計	７５	１９〈25.3%〉	２１〈28.0%〉	３５〈46.7%〉
２年	聞くこと	３０	１３〈43.3%〉	７〈23.3%〉	１０〈33.3%〉
	読むこと	３０	９〈30.0%〉	１１〈36.7%〉	１０〈33.3%〉
	書くこと	２１	４〈19.0%〉	７〈33.3%〉	１０〈47.6%〉
	計	８１	２６〈32.1%〉	２５〈30.9%〉	３０〈37.0%〉
３年	聞くこと	３０	７〈23.3%〉	８〈26.6%〉	１５〈50.0%〉
	読むこと	３０	４〈13.3%〉	９〈30.0%〉	１７〈56.6%〉
	書くこと	２０	１ 〈5.0%〉	２〈10.0%〉	１７〈85.0%〉
	計	８０	１２〈15.0%〉	１９〈23.8%〉	４９〈61.3%〉
合計		２３６	５７〈24.2%〉	６５〈27.5%〉	１１４〈48.3%〉

（ア）聞くこと

「聞くこと」については，「応答問題」，「詳細理解問題」，「概要・要点理解問題」のうち，全ての学年において「詳細理解問題」及び「概要・要点理解問題」について通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数以上となっている。

一方，全ての学年において「応答問題」は，設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数に満たない状況である。

問題タイプ別に述べると次のようになる。

「応答問題」では，Is it yours? に対して No, it's not mine. を選択する問題など所有代名詞や否定文で応えることについて定着が十分でない。また，I didn't see you at tennis practice yesterday. What were you doing? に対して I was sick in bed. と応えたり［２B1（１）］，Do you remember my favorite cup? I broke it yesterday. に対して，I'm sorry to hear that. と応えるなど，文形式ではなく内容をとらえて応答する問題については，前回の調査と同様定着が十分ではない。また，申し出る，依頼するなどの表現についても定着が十分でないと考えられる。特に，依頼に対する応答に多様な表現がある場合や，Did you like it? と聞かれて Yes, very much. と特定の形式から外れて応答する場合などは定着が十分ではない。

このように「応答問題」は，前回の調査結果と同様課題を残している。

「詳細理解問題」では，絵と話された英語を結びつけ正しいものを選択することや話題の中の中心的な語を正確に聞き取ること，単語レベルの聞き取りは定着していると思われる。一方，前置詞の意味，後置修飾の意味のとらえ方，不定詞の理解，多くの情報を整理して理解することなどには課題が残されている。

「概要・要点理解問題」では，全体的に定着している。特に，生徒にとって身近な場面での表現は定着がよい。

（イ）読むこと

「読むこと」については，「詳細理解問題」，「概要・要点理解問題」，「談話構造理解問題」，「言語使用に関する知識理解問題」のうち，全ての学年において「概要・要点理解問題」及び「言語使用に関する知識理解問題」について通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数以上となっている。また，第１学年及び第２学年において「詳細理解問題」が，また，第３学年においては「談話構造理解問題」が，設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数以上となっている。

一方，第３学年において「詳細理解問題」が，第１学年及び第２学年において「談話構造理解問題」が，設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数に満たない状況である。

問題タイプ別に述べると次のようになる。

「詳細理解問題」では，前置詞の理解が問われる問題［３B4（２）］や，連語の意味が問われる問題で定着が十分ではない。また，いくつかの情報を整理して正確に内容を読み取る問題の定着も十分ではない。

「概要・要点理解問題」は，全体的に定着している。特に，本文に書かれている内容が直接選択肢につながるような問題は定着がよい。

「談話構造理解問題」では，挿入する文の意味を理解していても，人物との対応関係がとらえられないため定着が十分ではない［２A6（１）］。

「言語使用に関する知識理解問題」では，Nice to meet you．に対して Nice to meet you，too．と応える問題のような日常的な慣用表現の定着はよい。一方で，Why don't you ～ ？の意味をとらえて応える問題については，定着が十分ではない。

（ウ）書くこと

「書くこと」については，「トピック指定問題」，「条件指定問題」，「文構造問題」のうち，第１学年において「条件指定問題」が，また，第２学年において「条件指定問題」及び「文構造問題」が，設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数以上となっている。

一方，全ての学年において「トピック指定問題」が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数に満たない状況である。また，第１学年において「文構造問題」が，第３学年において「条件指定問題」及び「文構造問題」が，設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数に満たない状況である。

このように，「書くこと」においては，第３学年で全てのタイプの問題について，設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数に満たない状況である。

問題タイプ別に述べると次のようになる。

「トピック指定問題」は，友人や先生の紹介［３C8］，夏休みにしたこと，私の好きな季節，学校生活の紹介，先週身のまわりで起こった事など，全ての問題で定着が十分ではない。しかし，自己紹介のように比較的書けるものもある。

解答例を見ると，I like banana．I like cat．I like dog.のように文の一部を変えただけ

の話題に発展性のない英文の羅列や He likes book is Harry Potter．のように日本語の語順の影響を受けたと思われるもが見られる。また，She is plays tennis.のような be 動詞と一般動詞の併用，She name is ～．His like soccer．など代名詞を正しく用いていないものが目立つ。

「トピック指定問題」は前回の調査結果と同様，無解答率も高く，課題を残している。

「条件指定問題」は，学年を追って定着が悪くなる傾向がある。特に，She wants to learn Japanese cooking.や He wants to be a music teacher．［２A9（３）］のように不定詞を用いた表現については無解答率も高く，定着がよくない。誤答として，She wants to Japanese cooking．He wants to a music teacher．などのようなものが目立つ。一方，He likes listening to music．のように使用頻度が高いと思われる表現においては比較的定着がよい。

「文構造問題」では，後置修飾，where　で始まる疑問文，ask ＋目的語＋ to 不定詞などの構造については課題を残している。後置修飾の誤答例としては，I have to a lot of books (read)．　I have a lot of to books (read).などのような文が多数見られる。

一方，I wanted to play baseball.，You look very happy.のようにまとまりとして記憶していると思われる構造については定着がよい。

③　評価の観点別に見た分析

評価の観点別に通過率と設定通過率を比較すると，通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられる問題数の合計が，第１学年では，「理解の能力」において半数以上を占め，「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」において半数未満となっている。第２学年では，「表現の能力」「理解の能力」において半数以上を占め，「言語や文化についての知識・理解」において半数未満となっている。第３学年では，「表現の能力」「理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」のすべてにおいて半数未満となっている。各学年の観点別の状況は以下のとおり。

		問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
１年	表現	１５	２<13.3%>	３<20.0%>	１０<66.7%>
	理解	６０	１７<28.3%>	１８<30.0%>	２５<41.7%>
	知識理解	２１	２　<9.5%>	６<28.6%>	１３<61.9%>
２年	表現	２１	４<19.0%>	７<33.3%>	１０<47.6%>
	理解	６０	２２<36.7%>	１８<30.0%>	２０<33.3%>
	知識理解	２１	５<23.8%>	５<23.8%>	１１<52.4%>
３年	表現	２０	１　<5.0%>	２<10.0%>	１７<85.0%>
	理解	６０	１１<18.3%>	１７<28.3%>	３２<53.3%>
	知識理解	２１	２　<9.5%>	７<33.3%>	１２<57.1%>

（ア）コミュニケーションへの関心・意欲・態度

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」は，「書くこと」の「トピック指定問題」において，指定された文数より１文以上多く書いた生徒を「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を強く示したと見なしている。

第１学年では，「３文以上できるだけたくさん書きなさい」という指示に対して，４文以上で書いた生徒は30.4%である。また，無解答率は26.0%である。第２学年では，「３文以上できるだけたくさん書きなさい」という指示に対して４文以上で書いた生徒は33.3%である。また，無解答率は25.6%である。第３学年では，「４文以上できるだけたくさん書きなさい」という指示に対して５文以上で書いた生徒は26.6%である。また，無解答率は33.7%である。

（イ）表現の能力

「表現の能力」は,「書くこと」に関わる問題を通してみている。設定通過率との比較においては十分に改善されたとは言えない状況である。

（ウ）理解の能力

「理解の能力」は,「聞くこと」に関わる問題と「読むこと」に関わる問題を合わせた結果を通してみている。

設定通過率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるものの合計数が, 第１, 第２学年では半数を上回っているが, 第３学年では半数に満たない。

（エ）言語や文化についての知識・理解

「言語や文化についての知識・理解」は,「読むこと」の「談話構造理解問題」及び「言語使用に関する知識理解問題」と「書くこと」の「文構造問題」を合わせた結果を通してみている。

設定通過率との比較においては十分に改善されたとは言えない状況である。

（３）質問紙調査の結果の概要

①　生徒質問紙調査

「英語の勉強が好きだ」

「英語の勉強が好きだ」という問いに対して,「そう思う」と答えた生徒と「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒を合わせると, 第１学年は60.5%, 第２学年は51.0%, 第３学年は48.7%であり, 学年が進むにつれて英語が好きな生徒は減少する傾向にある。この傾向は前回調査（58.7%, 51.2%, 48.5%）と同一である。

「英語の勉強は大切だ」

「英語の勉強は大切だ」という問いに対して,「そう思う」と答えた生徒と「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒を合わせると, 第１学年84.0%, 第２学年82.8%, 第３学年84.0%である。前回の調査(84.6%, 84.4%, 84.7%)では学年による変化は見られなかったが, 今回は, 第２学年で若干の減少が見られたものの, ほとんどの生徒が英語の勉強は大切だと考える傾向は変わらない。

「英語の授業がどの程度分かりますか」

学年ごとに分からなくなる生徒比率が増加する傾向は前回と同様である。

生徒質問紙調査

	よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分くらいずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない
第１学年	22.2	32.6	22.8	13.8	6.7
第２学年	16.5	30.8	24.7	16.9	9.3
第３学年	16.0	29.1	25.0	18.7	9.6

生徒質問紙調査（平成13年度調査）

	よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分くらいずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない
第１学年	20.3	33.0	23.4	13.9	6.5
第２学年	15.3	31.1	25.4	17.1	9.0
第３学年	15.4	29.5	25.5	17.9	9.8

「英語を使おうとする意欲」

英語が好きとする生徒が学年を追って減る傾向にあるのに対して，英語を使おうとする意欲は，学年を追って高まる傾向にある。ただし，書くことについては，学年を通じて変化はみられない。これらの傾向は，前回と同様である。

具体的には，「外国人が英語で話しかけてきたら，あなたはどうしますか」という問いに対して「英語で受け答えをする」と答えた生徒の比率は，第１学年では54.0%，第２学年では53.8%であるのに，第３学年では59.6%と増えている。「テレビやラジオから，英語の番組，歌，スポーツ中継などで英語が流れてきたら，あなたはどうしますか」という問いに対して「分かっても分からなくても，そのまま最後まで見たり，聞いたりする」と答えた生徒の比率は，第１学年では27.5%，第２学年では26.0%，第３学年では27.4%である。これに対して，「内容により，そのまま見たり，聞いたりする」と答えた生徒の比率は，第１学年では37.7%，第２学年では39.9%，第３学年では41.9%と増えている。「英語の新聞や雑誌などに，あなたの興味のある記事が書かれていると教えられたら，あなたはどうしますか」という問いに対しても同様の傾向が見られる。

一方，「外国の生徒と英語でメールを交換ができるようになるとの紹介があったら，あなたはどうしますか」という問いに対して「すぐに紹介をしてもらい，メールを書いてみる」と答えた生徒の比率は，第１学年では22.9%，第２学年では19.6%，第３学年では，21.0%と余り変化はなく，「誰かが助けてくれたら，やってみる」に対する回答は，第１学年は34.5%，第２学年は34.8%，第３学年は34.1%とほぼ横ばい状態である。

② 教師質問紙調査

「強勢，イントネーション，区切りなどの指導」

「強勢，イントネーション，区切りなど英語を正しく聞き取れるようになる指導を授業で行っていますか」という問いに対して，「多くの時間で実施している」または「どちらかといえば実施している」と回答している教師は，第１学年は82.2%，第２学年は79.0%，第３学年は77.5%であり，各学年とも80%前後である。

「スピーチなどの指導」

「スピーチなど生徒が自分の気持ちや考えを話す活動を授業で行っていますか」という質問に対して「多くの時間で実施している」または「どちらかといえば実施している方が多い」と回答している教師は，第１学年は42.6%，第２学年は41.8%，第３学年は43.4%であり，各学年とも40%を超えている。

「音読の指導」

「音読指導を授業で行っていますか」という問いに対して「多くの時間で実施している」または「どちらかといえば実施している」と回答している教師は，第１学年は96.3%，第２学年は93.4%，第３学年は91.5%であり，若干学年が進むにつれて数値は減るが，各学年とも90%を超えている。

「物語や説明文などの指導」

「物語や説明文などまとまりのある文章を読んであらすじや大切な部分を読み取るような活動を授業で行っていますか」という問いに対して，「多くの時間で実施している」または「どちらかといえば実施している方が多い」と答えている教師は，第１学年は43.1%，第２学年は59.7%，第３学年は73.2%であり，第３学年で最も数値が高い。学年が上がるにつれてその割合が増加している。

「自分の気持ちや考えなどを書く活動」

「トピックを与えて複数の文を書くなど自分の気持ちや考えを書く活動を授業で行っていますか」という問いに対して，「多くの時間で実施している」または「どちらかといえば実施している方が多い」と答えている教師は，第１学年は32.6%，第２学年は39.8%，第３学年は46.2%であり，学年が上がるにつれてその割合が増加している。

③　生徒と教師との意識の違いについて（生徒質問紙調査と教師質問紙調査との比較）

「よく分かった・よく分からなかった」と「生徒にとって理解しやすい・生徒にとって理解しにくい」

生徒質問紙調査では，授業で行われている学習を生徒が「よく分かった」か「よく分からなかった」かを質問している。また，教師質問紙調査では，授業で行われている学習が「生徒にとって理解しやすい」か「生徒にとって理解しにくい」かを質問している。

次の表は，それぞれの結果を整理したものである。

生徒質問紙調査

学年	聞き取れる学習		言える学習		読み取れる学習		書ける学習		言語，文化，くらしの学習	
	よく分かった	よく分からなかった	よく分かった	よく分からなかった	よく分かった	よく分からなかった	よく分かった	よく分からなかった	よく分かった	よく分からなかった
1	53.6	32.1	50.5	32.1	63.3	22.1	46.6	35.7	36.7	36.6
2	41.9	39.4	37.1	40.6	54.7	26.4	36.2	41.5	33.2	38.6
3	38.4	39.7	31.3	43.5	51.8	26.8	31.5	43.9	35.7	35.1

【注】　「聞き取れる学習」＝「話されている英語が聞き取れるようになる学習」
「言える学習」＝「自分の言いたいことが英語で言えるようになる学習」
「読み取れる学習」＝「教科書などに英語で書かれた内容が読み取れるようになる学習」
「書ける学習」＝「自分の言いたいことが英語で書けるようになる学習」
「言語，文化，くらしの学習」＝「外国の人々の言葉，文化，くらしについて学ぶ学習」
以下の表においても同様。

教師質問紙調査

学年	聞き取れる学習		言える学習		読み取れる学習		書ける学習		言語，文化，くらしの学習	
	生徒にとって理解しやすい	生徒にとって理解しにくい	生徒にとって理解しやすい	生徒にとって理解しにくい	生徒にとって理解しやすい	生徒にとって理解しにくい	生徒にとって理解しやすい	生徒にとって理解しにくい	生徒にとって理解しやすい	生徒にとって理解しにくい
1	48.0	17.9	23.2	36.7	55.7	16.3	13.3	54.6	53.1	6.2
2	43.0	25.0	17.8	42.1	51.5	20.3	12.5	55.8	53.8	6.5
3	44.9	23.0	17.3	44.0	51.1	20.7	12.9	53.8	54.5	7.0

生徒の「よく分かった・よく分からなかった」についての意識は，「話されている英語が聞き取れるようになる学習」，「自分の言いたいことが英語で言えるようになる学習」，「教科書などに英語で書かれた内容が読み取れるようになる学習」，「自分の言いたいことが英語で書けるようになる学習」のすべての領域で，学年が進むにつれて，「よく分かった」が減り，「よく分からなかった」が増えるという意識の変化傾向が見られる。「外国の人々の言葉，文化，くらしについて学ぶ学習」では，このような変化は見られない。

一方，教師の多くは，「話されている英語が聞き取れるようになる学習」，「教科書などに英語で書かれた内容が読み取れるようになる学習」や「外国の人々の言葉，文化，くらしについて学ぶ学習」を「生徒にとって理解しやすい」ととらえ，「自分の言いたいことが英語で言えるようになる学習」や「自分の言いたいことが英語で書けるようになる学習」は「生徒にとって理解しにくい」ととられており，その意識は学年を通して一貫している。

これらの結果は前回の調査と同一である。

「好きだった・きらいだった」と「生徒が興味を持ちやすい・生徒が興味を持ちにくい」

生徒質問紙調査では，授業で行われている学習を生徒が「好きだった」か「きらいだった」かを質問している。同様に，教師質問紙調査では，授業で行われている学習が生徒にとって「興味を持ちやすい」か「興味を持ちにくいか」を質問している。

次の表は，それぞれの結果を整理したものである。

生徒質問紙調査

学年	聞き取れる学習		言える学習		読み取れる学習		書ける学習		言語，文化，くらしの学習	
	好きだった	きらいだった	好きだった	きらいだった	好きだった	きらいだった	好きだった	きらいだった	好きだった	きらいだった
1	48.4	31.8	49.4	31.0	52.4	27.5	45.2	34.4	39.5	32.7
2	39.5	37.4	39.3	37.1	43.7	32.1	37.4	38.6	37.8	34.2
3	38.1	36.1	36.6	37.1	40.3	31.9	34.7	38.6	42.1	29.2

教師質問紙調査

学年	聞き取れる学習		言える学習		読み取れる学習		書ける学習		言語，文化，くらしの学習	
	生徒が興味を持ちやすい	生徒が興味を持ちにくい	生徒が興味を持ちやすい	生徒が興味を持ちにくい	生徒が興味を持ちやすい	生徒が興味を持ちにくい	生徒が興味を持ちやすい	生徒が興味を持ちにくい	生徒が興味を持ちやすい	生徒が興味を持ちにくい
1	69.5	5.1	67.9	7.6	31.1	30.3	44.5	22.7	81.0	3.9
2	63.2	8.4	62.9	13.2	28.5	33.5	42.7	26.3	78.7	4.0
3	63.3	8.6	61.8	12.0	28.8	34.6	46.2	23.4	80.6	4.3

生徒の「好きだった・きらいだった」についての意識は，領域によって大きな違いはないが，第１学年から第２学年で「好きだった」が減り，「きらいだった」が増えるという意識の変化が見られる。第２学年から第３学年では，「言語，文化，くらしの学習」において，若干ではあるが「きらいだった」が減る現象が見られる。

前回の調査では，どの領域も学年が進むにしたがって「好きだった」が減り，「きらいだった」が増えるという意識の変化傾向が見られていた。

一方，教師の「生徒が興味を持ちやすい・生徒が興味を持ちにくい」についての意識には領域によって違いが見られる。教師の多くは，「話されている英語が聞き取れるようになる学習」，「自分の言いたいことが英語で言えるようになる学習」や「自分の言いたいことが英語で書けるようになる学習」について「生徒が興味を持ちやすい」と考えている。これに対して，「教科書などに英語で書かれた内容を読みとれるようになる学習」は，第２学年及び第３学年で「生徒が興味を持ちにくい」と考えている。

前回の調査では，全学年を通して，教師は「教科書などに英語で書かれた内容を読みとれるようになる学習」は「生徒が興味を持ちにくい」と考えていた。

２.今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

今回の実施状況調査は，ペーパーテストであるということから，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域に限定して問題の作成をし調査を行った。学習指導要領では，内容として「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの領域を示しているが，今回の調査結果からは「話すこと」についての調査は含まれていない。また，調査内容については，調査時間の制限からそれぞれの領域の主たる項目を選んで調査を行った。また，以下に述べる指導上の改善点についても上記の三つの領域の調査結果に基づいてそれぞれ示したものである。

①　意味をとらえて応答することや，依頼や申し出などの応答表現の習熟を図る

「聞くこと」については，「応答問題」の分析結果から，文形式ではなく意味をとらえて応答することや，Did you like it? に対して Yes，very much．のようないくつかの答え方があることを指導していく必要がある。また，依頼や申し出などの応答表現の習熟を図るためには，授業中に教師と生徒，生徒同士でこれらの表現を用いる機会や場面を意図的に作っていく必要がある。

さらに Who's の意味が聞き取れなかった結果から，Who's が Who　is であることがわかるような音声の短縮についての指導を行う必要がある。前置詞や不定詞の意味，後置修飾については具体的な異なる場面の中で，意味の違いを理解させながら活動を通して聞き取ることができるような指導が必要である。

自己紹介や買い物など話題が日常的なものほど通過率が高いことから，日頃の授業においては常に既習事項を総合した英語を聞かせるなどの活動を通して，さまざまな意味内容を理解させる練習が必要である。

②　前置詞や連語の理解を意識した活動，複数の情報を整理しながら正確に内容を読み取る活動，対話の流れをとらえる活動の充実

「読むこと」については，「詳細理解問題」の分析結果から，第３学年においては，前置詞や連語の理解を意識した活動を行う必要がある。例えば，絵や写真などを使用し，視覚的に意味を理解させることなどが考えられる。また，複数の情報を整理しながら正確に内容を読み取る練習が必要である。

「談話構造理解問題」の分析結果から，第１学年及び第２学年においては，対話の流れを理解させるとともに対話文と登場する人物との対応に意識を向けさせる指導が大切である。

③　様々な話題に関してまとまった文章を書く活動の充実，文構造などを理解し，目的に応じて，活用できるまでに高める指導

「書くこと」については，「トピック指定問題」の分析結果から，話題の一貫性を意識させるとともに代名詞や接続詞を用いた文と文のつなぎ方などについて指導する必要がある。自己紹介のように繰り返し行われる活動に関わる問題は，通過率が高いことから，それ以外の様々な話題に関してもまとまった文章を書く時間を確保することが改善につながると思われる。また，生徒が書いた英文については，正確さだけでなく書いた量も評価の対象とすることで書くことへの意欲を高める必要がある。

「条件指定問題」「文構造問題」の分析結果から，単語の意味や働きから単語間の結びつきを理解させ，適切な語順で文を書くことができるように指導することが求められる。具体的には，不定詞を用いた文，後置修飾，where で始まる疑問文などの構造を十分理解した上で繰り返し練習し，活用できるまでに高める指導が求められる。

（参考）

本調査では，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の三つの領域で調査を行い，それぞれの領域においては，以下のような問題タイプを設定した。

（ア）聞くこと

「聞くこと」の領域では，問題タイプとして「応答問題」「詳細理解問題」「概要・要点理解問題」を出題している。それぞれの問題形式と出題のねらいは以下のとおりである。

○　応答問題

この問題は，２～４文の英語の話しかけを聞いて，それにふさわしいと思われる応答を選択肢より選ぶものである。また，それぞれの問題には，その会話が行われている場面が日本語で示されている。ここでは，英語の音声理解の能力を応答を通してみようとしている。

○　詳細理解問題

この問題は，一つの絵や図表を見ながら４種類の２～３文の英語を聞いて，絵や図表の内容と合った英文を選ぶものである。絵や図表の内容との一致をみるために，客観的な情報の聞き取りが主となっている。ここでは，英語の音声理解の能力を詳細な情報に関してみようとしている。

○　概要・要点理解問題

この問題は，５～15文程度の英語を聞いて，その概要や要点を選択肢より選ぶものである。解答に当たっては，複数の箇所にわたる情報を統合したり取捨選択したりすることを求めている。ここでは，英語の音声理解の能力を概要や要点に関してみようとしている。

（注）「聞くこと」のテスト問題において収録された英語の発話速度は，ネイティブ・スピーカーの自然な発話速度である，おおよそ150語／分としている。

（イ）読むこと

「読むこと」の領域では，問題タイプとして「詳細理解問題」「概要・要点理解問題」「談話構造理解問題」を出題している。それぞれの問題形式と出題のねらいは以下のとおりである。

○　詳細理解問題

この問題は，会話文を読んで，その内容に合った絵や図表を四つの中から選ぶものである。絵や図表の内容との一致をみるために，客観的な情報の読み取りが主となっている。ここでは，英語の読解力を詳細な情報に関してみようとしている。

○　概要・要点理解問題

この問題は，ある程度のまとまりのある長さの英文（７～10文程度）を読んで，その概要や要点を選択肢より選ぶものである。選択肢は日本語で示されている。解答に当たっては，複数の箇所にわたる情報を統合したり取捨選択したりすることを求めている。ここでは，英語の文章理解の能力を概要や要点に関してみようとしている。

○　談話構造理解問題

この問題は，会話文を読み，そこから抜き取られた１文を文脈から判断して，どこに入るのがふさわしいのかを問うものである。ここでは，英語の文章理解の能力を談話構造という観点からみようとしている。また，「読むこと」を通して「言語や文化についての知識・理解」についてもみようとしている。

○　言語使用に関する知識理解問題

この問題は，会話の中の１文が抜けており，英語の言語使用に関する知識理解をもとにして，そこにふさわしい文を選択肢より選ぶものである。ここでは，英語の文章理解の能力を言語使用という観点からみようとしている。

（ウ）書くこと

「書くこと」の領域では，問題タイプとして「トピック指定問題」「条件指定問題」「文構造問題」を出題している。それぞれの問題形式と出題のねらいは以下のとおりである。

○　トピック指定問題

この問題は，トピックを与えて自由に書かせるものである。各問題には英文の書き出しが示してあり，それに続けて第１学年，第２学年は３文以上，第３学年は４文以上書くことを求めている。書かれている文の数及び内容のつながりという二つの観点から評価し，綴りや格変化などの誤りは意味が理解される限りは許容する。ここでは，身近な話題について，自分で書くべき内容を考えて英語で表現する能力があるかどうかをみようとしている。

○　条件指定問題

この問題は，メモまたは状況を示すことによって内容（factual information）を指定し，それを英語で書かせるものである。ここでは，指定された内容を英語で表現する能力があるかどうかをみようとしている。

○　文構造理解問題

この問題は，会話の中にある文の単語の並び換えを行うものである。並び換える語句の数は３～５である。日本語の補助はなく，文脈により，構成すべき文の内容が規定されている。ここでは，正しい語順で書くことができるかどうかをみようとしている。